

# 図書館だより

枚方市立図書館通信第 101 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/citybrand-kyouikubunka/tayori.html>

発行：平成 27 年 5 月 枚方市立中央図書館（毎週金曜日・第 4 火曜日休館）050-7105-8121

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962



中央図書館ボランティア「ひらりんかたりん」さんの読み聞かせ風景



正面階段の花は開館以来ボランティアさんにより  
活けられてきました。（ゼンマイ、スプレーバラ、  
アルストロメリア、カラー、八つ手の葉）

## 中央図書館ボランティアをしませんか？

### 読み聞かせや書架整理など 20 名程度募集、5 月 12 日～、先着順

中央図書館は今年で開館 10 周年を迎えました。今日まで無事に運営できたのは、利用者みなさまのお力添えはもちろんのこと、中央図書館ボランティアのみなさまの活躍も欠かせません。

ボランティアのみなさまには、書架整理をしながら、正面玄関での総合案内、本の修理、新聞記事の整理や、子どもたちへの絵本の読み聞かせなど、利用者みなさまと本をつなぐため、図書館運営にご協力いただきました。このたび、中央図書館ボランティアのみなさまから、「いろいろな人と中央図書館ボランティアをする楽しみを分かち合いたい」という声をいただき、新たにボランティアを募集するものです。資格は問いません。金曜日と祝日を除く、午前 10 時から 16 時までの半日、週 1 回程度、中央図書館でボランティア活動できる人ならどなたでも応募できます。ただし、6 月 3 日（水）10 時～12 時、または 6 月 7 日（日）10 時～12 時の説明会への出席が参加の条件となります。また、読み聞かせ希望の方は、さらに、6 月 14 日、21 日、28 日、いずれも日曜日の 10 時～12 時、「読み聞かせボランティア養成講座」も受講してください。

問い合わせ：中央図書館 050-7105-8112

## 5 月の図書館イベント

### ひらかた絵本まつり

5 月 12 日まで開催

#### ●中央図書館

- こいのぼり大集合展 & リアルミッケ「こいのぼりをさがせ！」  
5 月 2 日(土)～5 月 6 日(水)

- ひらりんかたりん おはなし会(乳幼児)  
5 月 7 日(木)、5 月 12 日(火)、11:00～

#### ●枚方公園分室

- 読書がすすむ!しおりをつくろう  
5 月 12 日までの開室日 10:30～16:30

#### ●村野分室

- おはなし会 5 月 2 日土曜日 11:00～
- おはなし会スペシャル  
5 月 9 日土曜日 11:00～

#### ●藤阪分室

- おはなし会スペシャル 5 月 9 日土曜日 14:30～
- ブックカバーを作ろう  
5 月 1 日金曜日、5 月 2 日土曜日、13:00～16:00

#### ●香里園分室

- おたのしみ会スペシャル 5 月 9 日土曜日 14:00～
- “ぼくのわたしのおすすめ本コーナー”  
5 月 12 日までの開室日 13:00～17:00

#### ●氷室分室

- おはなし会 4 月 25 日、5 月 2 日土曜日 14:00～
- おはなし会スペシャル 5 月 9 日土曜日 14:00～
- ババールの会(乳幼児向け)  
5 月 7 日木曜日 11:00～

#### ●宮之阪分室

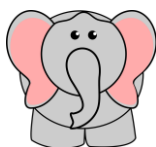
- 朝のおはなし会  
5 月 2 日、5 月 9 日土曜日 11:00～

#### ●茄子作分室

- おはなし会スペシャル 5 月 9 日土曜日 10:30～

#### ●釈尊寺分室

- こぐまちゃんの会(乳児向け)  
5 月 8 日金曜日 10:30～
- おはなし会スペシャル  
5 月 2 日、5 月 9 日土曜日 10:30～



### ふれあいルーム(絵本で子育て)

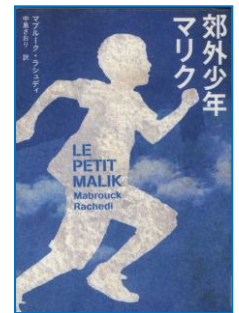
- 中央図書館 毎週月曜日
- 香里ヶ丘図書館 第1・3(金)第2・4(木)
- 楠葉生涯学習市民センター 第2・4火曜日
- 菅原図書館 毎週日曜日
- さだ図書館 毎週木曜日(第3週は金曜日)
- 牧野図書館 毎週金曜日
- 津田図書館 第2・4水曜日
- 御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時～12 時 30 分(楠葉のみ 9 時 30 分～12 時)但し、図書館等の休館日には実施しません。

### ちょっと【本の紹介】

## 『郊外少年マリク』

マブルク・ラシュディ著  
集英社  
中島さおり訳



パリ郊外の老朽化した大型団地に住む、アルジェリア系移民の少年、マリクが主人公。5 歳から 26 歳までの半生を、マリクの視点で、スラングを交えて小気味よく語っている。

フランスは人口の 19%を移民が占め、貧困、格差といった問題を抱えている。著者自身もアルジェリア系移民 2 世としてパリ郊外の団地に育った。スラム化した団地では、万引きやかっぱらい、麻薬が日常的に蔓延している。そのような環境で少年がしたたかに、たくましく成長する姿を描いている。

子どもの頃はサッカーがうまくて、頭もよくて、女の子にもモテたマリクなのに、なぜか人生の歯車が狂い、自分よりもサッカーが下手だった幼なじみがスター選手になった。就職しても人種差別を受けて解雇された。思い返せば貧しいなりにチャンスはあったのに幸運を逃していた。それでもマリクは自分が育った団地が好きだ。黒人のアブドゥもユダヤ人のサロモンも友達だった子ども時代を胸に抱き、誇りをもって生きていく姿に好感がもてる。

(中央図書館児童サービス担当)